

美濃正教授：略歴・著作目録その他

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪市立大学大学院文学研究科 公開日: 2024-09-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://ocu-omu.repo.nii.ac.jp/records/2006326

Title	美濃正教授：略歴・著作目録その他
Author	
Citation	人文研究. 67 巻, p.15-18.
Issue Date	2016-03
ISSN	0491-3329
Type	Others
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学院文学研究科
Description	湯浅恭正教授：美濃正教授退任記念

Placed on: Osaka City University Repository

美 濃 正 教授

略 歴

1950年12月 大阪府に生まれる

【学 歴】

1969年 3 月 大阪府立北野高等学校卒業

1969年 4 月 京都大学文学部入学

1974年 3 月 京都大学文学部哲学科（哲学専攻）卒業

1974年 4 月 京都大学大学院文学研究科修士課程（哲学専攻）入学

1977年 3 月 京都大学大学院文学研究科修士課程（哲学専攻）修了

1977年 4 月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程（哲学専攻）進学

1980年 3 月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程（哲学専攻）研究指導認定退学

1980年 4 月 京都大学文学部研修員（1982年 7 月まで）

1982年 8 月 フルブライト留学生として米国ノートルダム大学大学院哲学科留学（1984年 8 月まで）

【職 歴】

1985年 4 月 京都大学文学部（哲学講座）助手

1987年 4 月 大阪学院大学経済学部助教授

1992年10月 大阪市立大学文学部助教授

2001年 4 月 大阪市立大学大学院文学研究科教授

【学会ならびに社会における活動】

日本哲学会（1998年～2001年：学会誌編集委員）、日本科学哲学会（1996年～現在：評議員、1999年～現在：学会誌編集委員）、科学基礎論学会（2000年～現在：評議員）、日本倫理学会会員（2000年～現在）、応用哲学会（2005年～2011年：理事、学会誌編集委員長）、関西哲学会（2000年～2002年：会計監査）、日本カント協会（1981年～2000年）

研究業績

【共編著書】

2003年 7 月 『心の科学と哲学：コネクショニズムの可能性』（昭和堂）

2008年 3 月 『感情とクオリアの謎』（昭和堂）

2008年10月 『知識と実在：心と世界についての分析哲学』（世界思想社）

2012年 5 月 『これが応用哲学だ！』（大隅書店）

【論 文】

1979年 6 月 「カントの第一の二律背反について」 京都大学哲学論叢刊行会『哲学論叢』第 6 号 21-34頁

1980年 7 月 「カントにおける経験的自我の問題」『理想』第566号 98-114頁 理想社

1981年11月 「「超越論的演繹」について」『理想』第582号 133-142頁 理想社

- 1988年 4 月 「現代科学哲学における反実在論——B・C・ファン・フラーセンの場合」
井上庄七・小林道夫編『自然観の展開と形而上学—西洋古代より現代まで』
353-385頁 紀伊國屋書店
- 1988年10月 「科学的実在論の問題」 内井惣七・小林道夫編『科学と哲学——論理・物理・心・
言語』 213-257頁 昭和堂
- 1989年11月 「科学と反実在論」『科学哲学』第22巻 13-25頁 日本科学哲学会
- 1990年 3 月 「科学的実在論の擁護」『科学基礎論研究』第74号161-166頁 科学基礎論学会
- 1990年 6 月 「ロックとカント——自我のあり方をめぐって」 廣松渉・坂部恵・加藤尚武編
『講座ドイツ観念論第1巻 ドイツ観念論前史』19-65頁 弘文堂
- 1990年10月 「指示と意味——反フレゲの意味論の展開」 神野慧一郎編『現代哲学のフロ
ンティア』134-166頁 勁草書房
- 1991年 3 月 「自由の問題」『関西哲学会紀要』第25号 90-102頁 関西哲学会
- 1991年 9 月 「意味論」 神野慧一郎編『現代哲学のバックボーン』223-244頁 勁草書房
- 1992年 9 月 「行為と意図——倫理の存在論的基礎の解明をめざして」『人文自然論叢』第
25号 1-17頁 大阪学院大学人文自然学会
- 1993年10月 「現代の英米哲学とカント」 竹市明弘・坂部恵・有福孝岳編『カント哲学の現
在』51-71頁 世界思想社
- 1993年12月 「志向性・知覚・指標性——サールの内在主義について」『人文研究』第45巻
第3分冊87-106頁 大阪市立大学文学部
- 1995年12月 「非法則的一元論と心の因果性」『人文研究』第47巻第1分冊43-61頁 大阪市
立大学文学部
- 1997年 8 月 「行為と因果性——行為論の展開の一断面」 藤本隆志・伊藤邦武編『分析哲学
の現在』122-155頁 世界思想社
- 1997年12月 「行為とは単に身体を動かすことにすぎないか ——アンスコム—デイヴィド
ソンの単一被記述項説の批判的検討」『人文研究』第49巻第3分冊61-80頁
大阪市立大学文学部
- 1999年 3 月 「日常的道德的判断の合理性——「道德的運」の概念をめぐって」平成8・9・
10年度文部省科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書（研究
代表者：小林道夫）35-41頁
- 1999年11月 「クオリアなんて怖くない——クオリア・マニフェスト（哲学ヴァージョン）」
『科学哲学』第32巻第2号39-51頁 日本科学哲学会
- 1999年12月 「行為とはどのような存在者か？——行為と身体運動再考（上）」『人文研究』
第51巻第1分冊23-39頁 大阪市立大学文学部
- 2000年 3 月 「認知科学と科学哲学——戸田山和久の所論に寄せて」平成9・10・11年度文
部省科学研究費補助金（基盤研究（B）（1））研究成果報告書（研究代表者：
美濃 正）66-75頁
- 2000年 7 月 「価値は実在するか？——マクダウエル説の批判的検討」『アルケー（関西哲
学会年報）』第8号 1-11頁 関西哲学会
- 2000年11月 「思考のありか：信原説への疑問」『科学哲学』第33巻第2号43-56頁 日本科
学哲学会
- 2000年12月 「行為とはどのような存在者か？——行為と身体運動再考（中）」『人文研究』
第52巻第1分冊65-91頁 大阪市立大学文学部
- 2001年12月 「行為とはどのような存在者か？——行為と身体運動再考（下）」『人文研究』
第53巻第1分冊47-64頁 大阪市立大学大学院文学研究科
- 2004年 7 月 「心的因果と物理主義」 信原幸弘編『シリーズ心の哲学Ⅰ 人間篇』25-84頁

勁草書房

- 2005年 3月 「三浦俊彦氏の「人間原理」論について」平成13・14・15年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（1））研究成果報告書（研究代表者：横山輝雄）73-83頁
- 2006年 3月 「カントと分析哲学」坂部恵・有福孝岳・牧野英二編『カント全集別巻 カント哲学案内』114-132頁 岩波書店
- 2007年 3月 「ヒュームの「理性は情念の奴隷である」というテーゼについて、もしくは事実と価値の二分法の擁護」『西洋哲学における理性と情念の関わり合いについての研究』2006年度大阪市立大学瀬川学術振興奨励費研究成果報告書49-61頁
- 2007年 3月 「クオリアに関する表象説について：その批判的検討」平成16・17・18年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書（研究代表者：柴田正良）67-78頁
- 2008年 8月 「決定論と自由—世界にゆとりはあるのか？」飯田隆他編『岩波講座哲学第2巻 形而上学の現在』161-186頁 岩波書店
- 2013年 3月 「誰よりも偉大なデカルト—デカルト＝小林道夫氏の心の哲学について」安孫子信・出口康夫・松田克進編『デカルトをめぐる論戦』209-227頁 京都大学学術出版会

【学会発表等】

- 1979年10月 「カントにおける因果性の原理」（関西哲学会、金沢大学）
- 1981年11月 「カントにおける経験的自己意識」（日本カント協会、法政大学）
- 1988年 5月 「門脇卓爾氏「カントの道徳哲学」に対する質問」（門脇氏の特別報告に対する代表質問、日本哲学会、岡山大学）
- 1988年11月 「科学的实在論の可能性」（シンポジウム「科学と反—实在論」における提題発表、日本科学哲学会、近畿大学）
- 1989年 6月 「科学的实在論」（シンポジウム「科学的实在論」における提題発表、科学基礎論学会、関西大学）
- 1990年10月 「自由の問題」（シンポジウム「自由」における提題発表、関西哲学会、高知大学）
- 1994年11月 「行為因果説と非法則的一元論」（ワークショップ「行為と出来事存在論——デイヴィッドソンの行為論をめぐる——」における提題発表、日本科学哲学会、北海道大学）
- 1987年 3月 「哲学的テーゼとしての相対主義は何を主張しているのか？」（シンポジウム「相対主義をめぐる」における提題発表、名古屋哲学フォーラム、南山大学）
- 1998年11月 「クオリア・マニフェスト 哲学ヴァージョン」（日本科学哲学会、鹿児島大学）
- 1999年10月 「価値は实在するか？——マクダウエル説の批判的検討」（依頼発表、関西哲学会、島根大学）
- 1999年10月 信原幸弘氏『心の現代哲学』へのコメント」（FINE-Chiba Forum、千葉大学）
- 2001年 9月 「思考とはなにか？：信原説との対決」（シンポジウム「コネクショニズムをめぐる」における提題発表、名古屋哲学フォーラム、南山大学）
- 2004年10月 「おさらい」（ワークショップ「思考の言語（Language of Thought）とコネクショニズム」における提題発表、日本科学哲学会、京都大学）
- 2009年 4月 「心的因果の可能性をめぐる：因果的排除論証に対する諸反応」（ワークショップ「心的因果の可能性をめぐる：キムの所説を中心に」における提題発表、応用哲学会、京都大学）
- 2009年10月 「「自由意志」、ミニマムの自由、責任」（主題別討議「自由意志の可能性」における提題発表、日本倫理学会、南山大学）

2011年 4 月 「知覚のいくつかの基本的性格について：直接性、現象的性格、透明性」（ワークショップ「知覚の哲学の最近における展開をめぐる」）における提題発表、応用哲学会、京都大学）

【その他】

1981年 6 月 「「経験の第二の類推」についての覚書」『哲学論叢』第 8 号 京都大学哲学論叢刊行会

1988年 2 月 「科学——その構造」 竹市明弘・常俊宗三郎編『哲学とはなにか——その歴史と可能性』勁草書房

1988年 5 月 「門脇卓爾氏「カントの道德哲学」に対する質問」『哲学』第38号 日本哲学会

1991年 5 月 「現代英米哲学における懐疑論」 昭和62年度文部省科学研究費（一般研究B）補助金研究成果報告書（研究代表者：藤澤令夫）

1991年11月 「人はいかにして科学的世界と共に生き得るか——黒崎宏氏に答えて」『科学哲学』第24巻 日本科学哲学会

1992年 6 月 「書評 ペーター・ブラス著（犬竹正幸・中島義道・松山寿一他訳）『カントの自然科学論』」『理想』第649号 理想社

1992年12月 「実在——ダメット、クワイン」 丸山高司編『現代哲学を学ぶ人のために』世界思想社

1997年12月 坂部恵他編『カント事典』 項目説明（全 3 項目） 弘文堂

1998年 3 月 廣松渉他編『哲学・思想事典』 項目説明（全10項目） 岩波書店

2002年 8 月 日本認知科学会編『認知科学辞典』 項目説明（全 8 項目） 共立出版

2003年 3 月 「コネクショニズムと消去主義についてのノート：ラムジー・スティッチ・ガロンの議論への応答」 平成12・13・14年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（1）） 研究成果報告書（研究代表者：服部裕幸）22-30頁

2004年 3 月 「社会への説明責任」（大和文雄と共著） 黒田光太郎・戸田山和久・伊勢田哲治編『誇り高い技術者になろう：工学倫理のススメ』 第 4 章第 4 節 名古屋大学出版会

2005年12月 人工知能学会編『人工知能学事典』 項目説明（全 2 項目） 共立出版

2010年 3 月 「日本倫理学会第60回大会主題別討議報告 自由意志の可能性」（宇佐美公生他と共著）『倫理学年報』第59集 47-58頁 日本倫理学会

2012年 7 月 「社会全体に対してどう行動するべきか—社会への説明責任を中心に」（改稿） 黒田光太郎・戸田山和久・伊勢田哲治編『誇り高い技術者になろう：工学倫理のススメ（第 2 版）』 第 4 章第 4 節 名古屋大学出版会